

2026年3月期 通期決算補足説明資料

2026年5月8日

フィード・ワン株式会社

東証プライム 証券コード2060

飼料で食の未来を創り、命を支え、笑顔を届ける

統合10周年の節目に、各利益段階で過去最高益を達成し、増配も決定

売上高

2,906億円

畜産飼料の販売価格低下等

前期比

▲1.8%

業績予想比※

▲6.5%

経常利益

86億円

継続的収益力強化を推進

前期比

+26.9%

業績予想比

+23.0%

最終利益

63億円

前期比

+18.4%

業績予想比

+22.6%

株主還元

配当方針

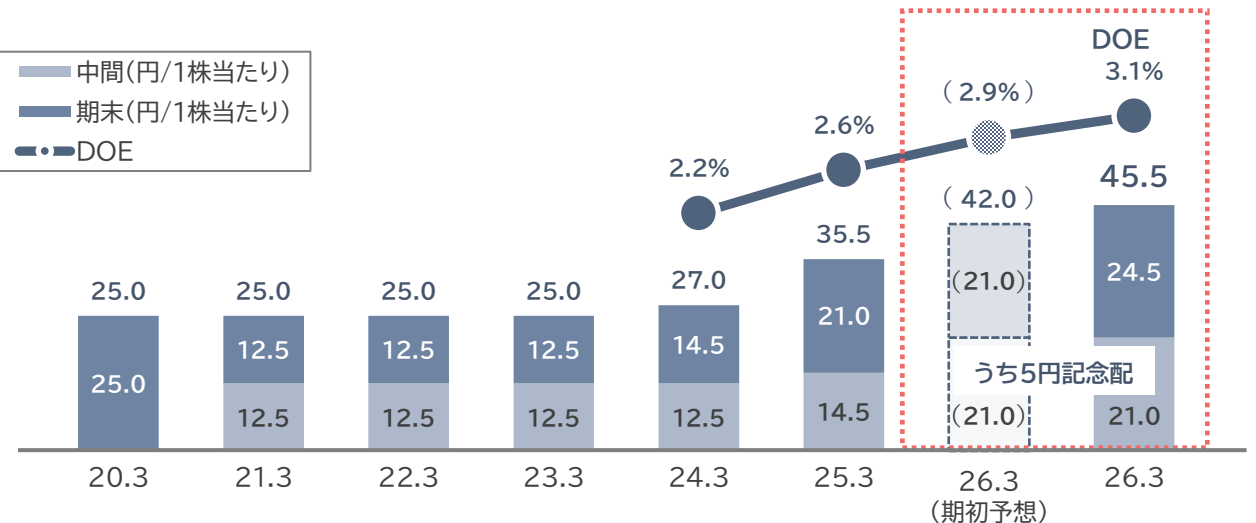
長期的発展の礎となる財務体質強化のための内部留保の充実と累進配当を基本として、**連結株主資本配当率(DOE)3%**を目標といたします。

内部留保資金につきましては、将来にわたっての競争力を維持・成長させるための投資資金として有効に活用する方針です。

1株あたり
配当額

(中間) 普通配当16.0円に加え、完全統合10周年を記念した5円を配当し、**21.0円**とする
(期末) 業績等を勘案し、期末配当を21.0円から3.5円増配し**24.5円**とする

■ 中間(円/1株当たり)
■ 期末(円/1株当たり)
● DOE

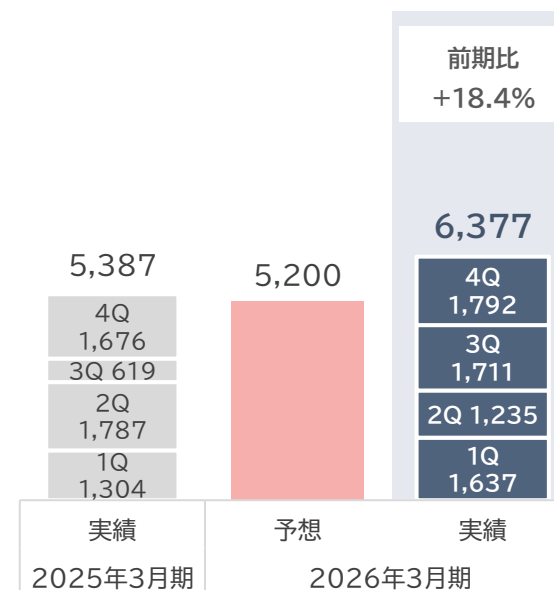
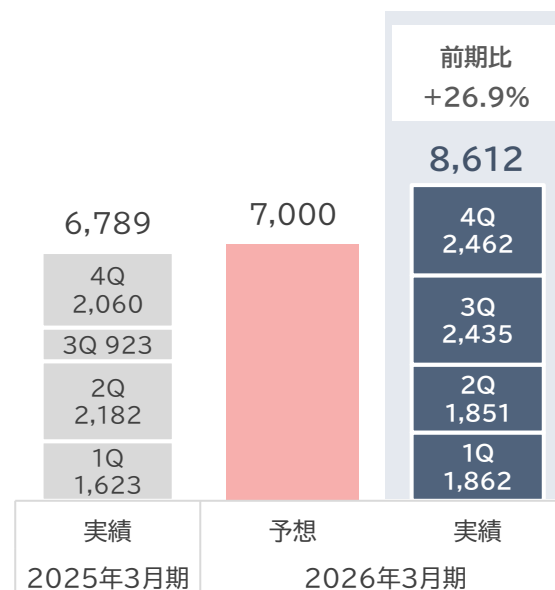


※本資料の比較は、2025年5月8日公表の期初予想に基づくものです

畜産飼料の販売価格低下や販売数量減少に伴い減収も、採算性改善が進み、各利益段階で過去最高益を達成

(百万円)

	2025.3期	2026.3期	
		前期比	通期予想 達成率 (以下、達成率)
売上高	296,045	290,675 ▲1.8%	93.5%
売上原価	264,171	256,828 ▲2.8%	-
売上総利益	31,874	33,847 +6.2%	100.1%
販管費	25,531	25,755 +0.9%	-
営業利益	6,343	8,091 +27.6%	119.0%
経常利益	6,789	8,612 +26.9%	123.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益	5,387	6,377 +18.4%	122.6%



販売戦略において採算性を重視したことにより販売数量は減少したものの、各利益で過去最高益を達成

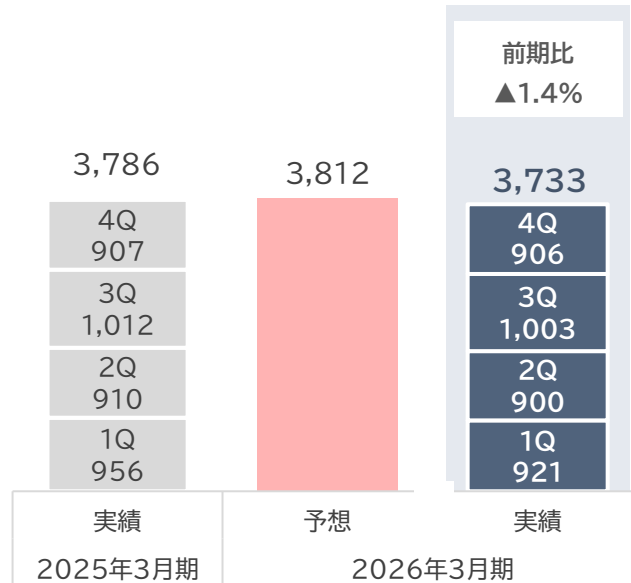
収益力強化の方針のもと、販売数量は減少したものの、EBITDAは増加。投資は計画通り実施

販売数量

3,733千トン

達成率
98%

単位:千トン

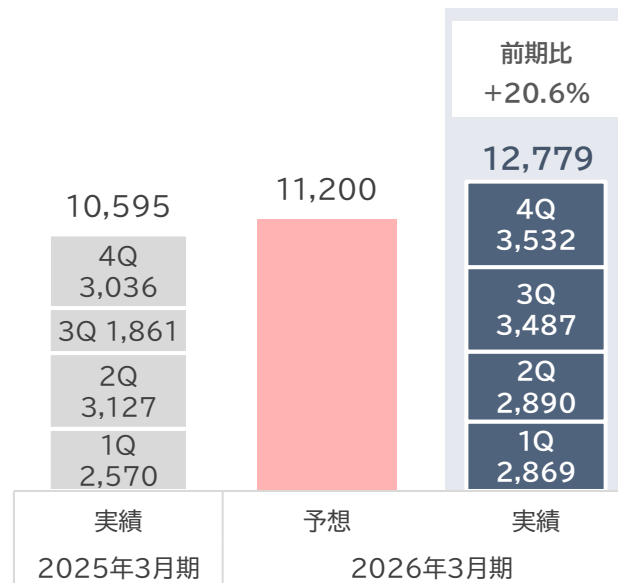


EBITDA

12,779百万円

達成率
114%

単位:百万円

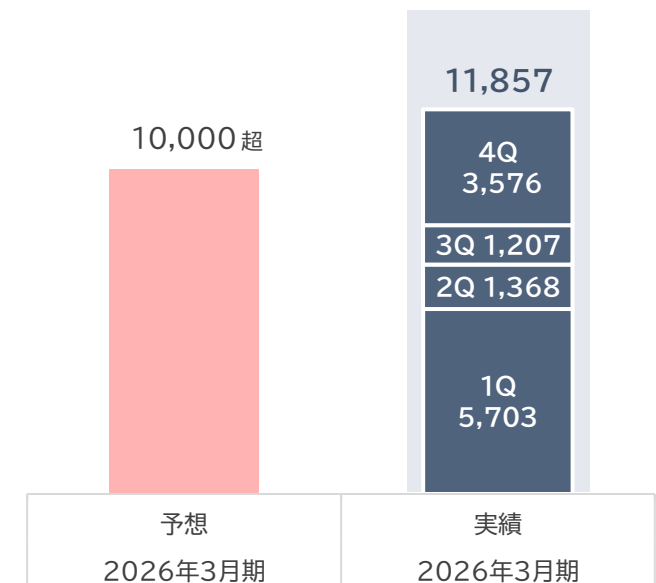


総投資額

11,857百万円

達成率
119%

単位:百万円



暑熱や家畜疾病等の環境要因に加え、採算性>数量への転換により前期比減少



飼料事業の粗利増加を主要因に増加
減価償却費は前期比+310百万円



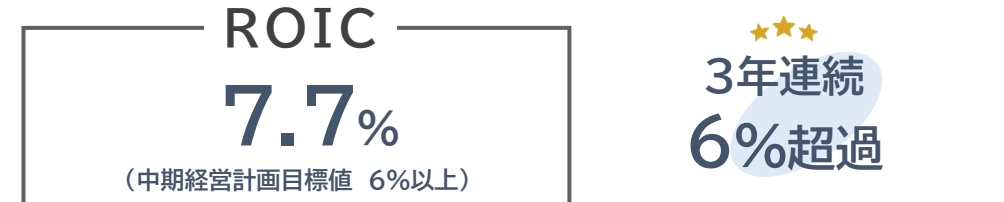
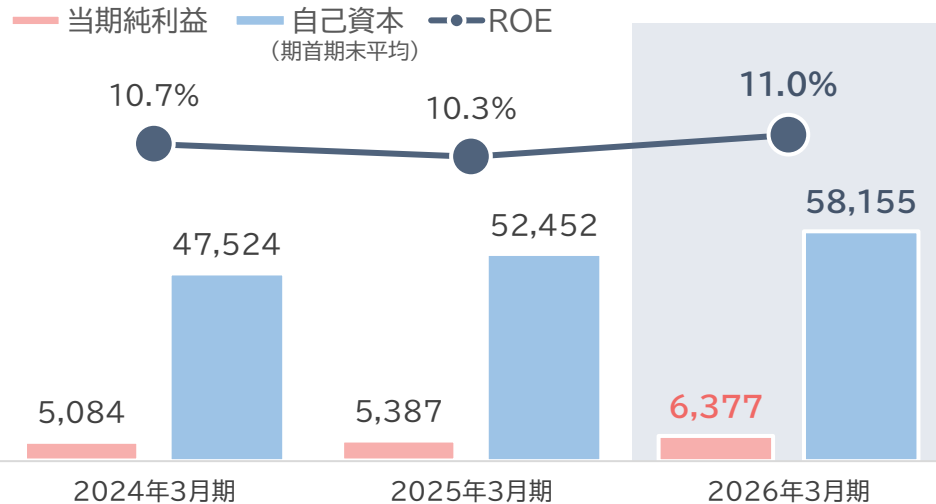
水産新工場の建設に関わる投資を中心に、安全対策や生産効率改善投資も着実に実行

※EBITDA: 経常利益+支払利息-受取利息+減価償却費及びのれん償却費

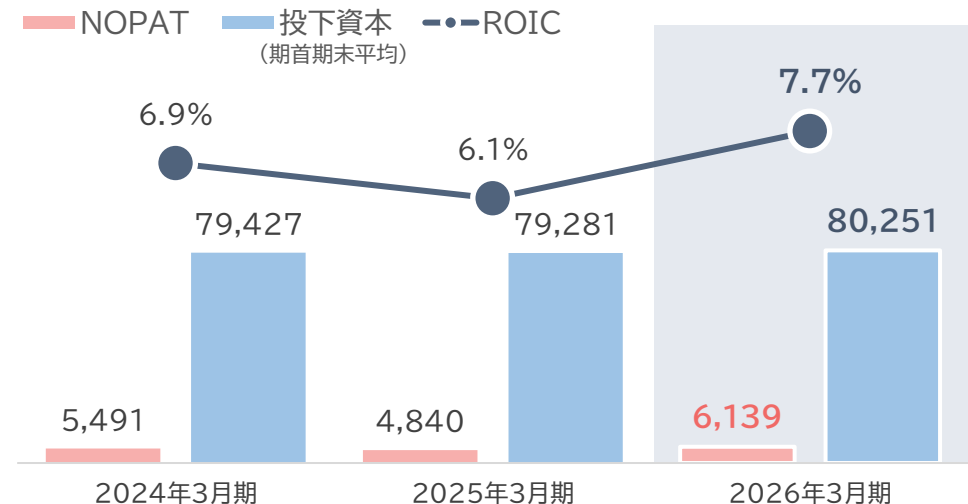
ROE・ROICは安定的に推移。中期経営計画で想定していた資本コストを上回る水準を確保



単位:百万円



単位:百万円



※当社は当中期経営計画期間では **株主資本コスト 8%** **WACC 6%** と想定しております



自己資本は増加した一方、過去最高益によりROEは向上

※ROE=当期純利益/自己資本の期首・期末平均



増益に加えROIC経営の浸透もあり運転資金が減少。それに伴い有利子負債が減少したことで投下資本効率が向上

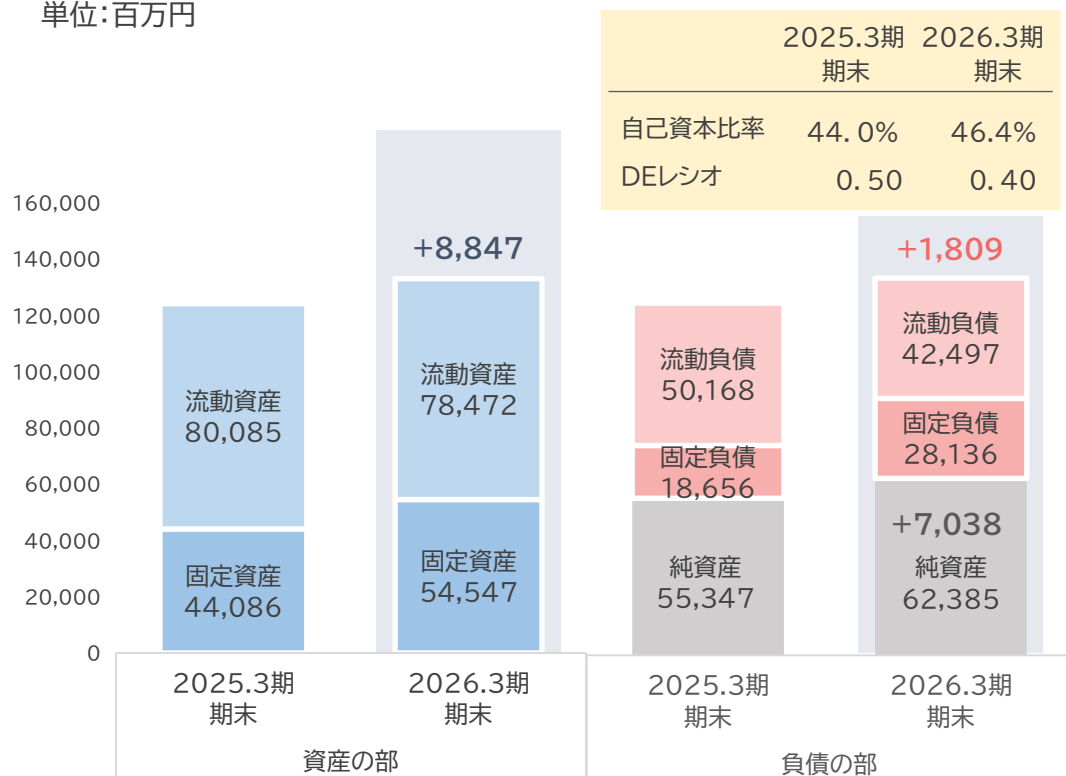
※ ROIC=NOPAT/投下資本 ※ NOPAT=(経常利益+支払利息-受取利息)×(1-実効税率)

※ 投下資本=(有利子負債+株主資本)の期首・期末平均

成長投資を進める中でも、強固なキャッシュ創出により財務体質は着実に改善

連結貸借対照表

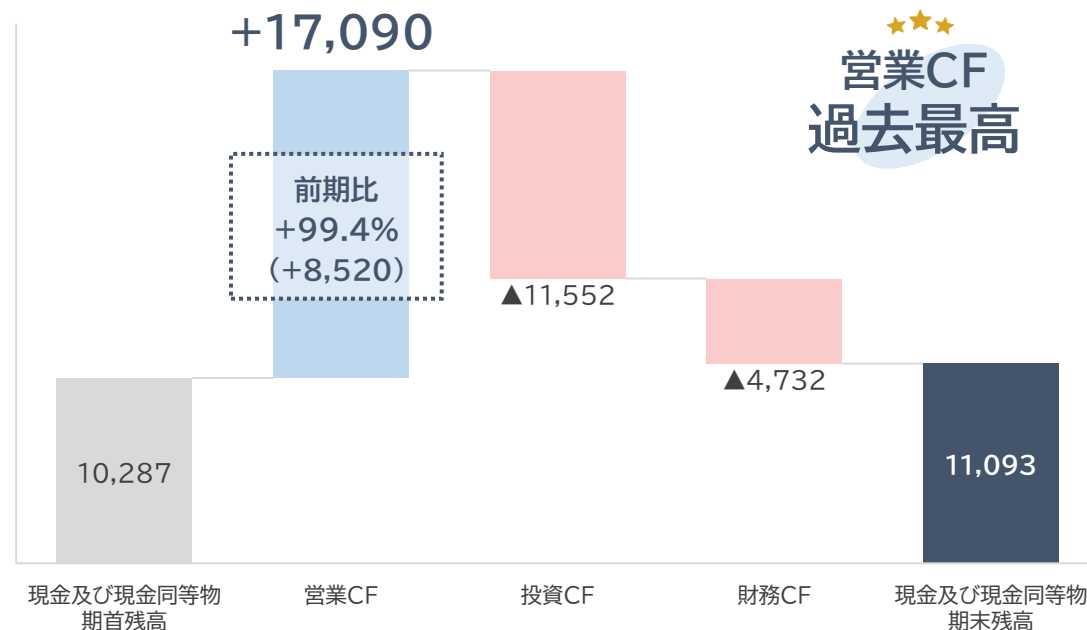
単位:百万円



連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

■ 増加 ■ 減少



水産新工場建設に関わる固定資産が増加(建設仮勘定)
シンジケートローンの実行により長期借入金が増加(有利子負債は減少)
※自己資本比率=自己資本/総資産 ※DELシオ=有利子負債/自己資本



営業CF) 税金等調整前純利益8,603百万円、減価償却費3,932百万円
運転資本の改善額+4,279百万円 ※運転資本=売上債権・棚卸資産・仕入債務の増減
投資CF) 水産新工場の建設に関わる支出等

セグメント別業績

採算性を重視した販売の徹底により、数量減少下でも畜産・水産ともに過去最高益を達成

(百万円, %)

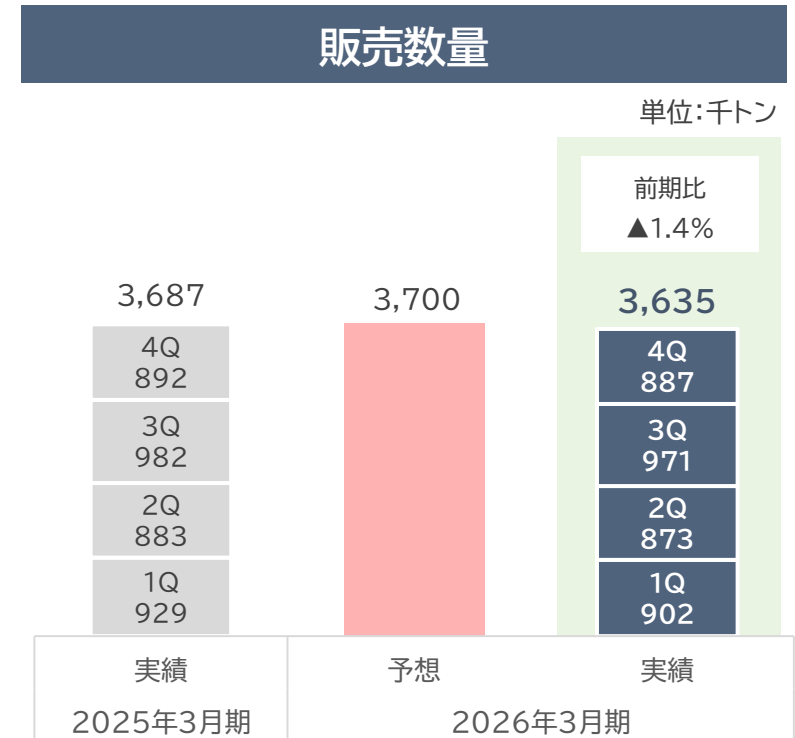
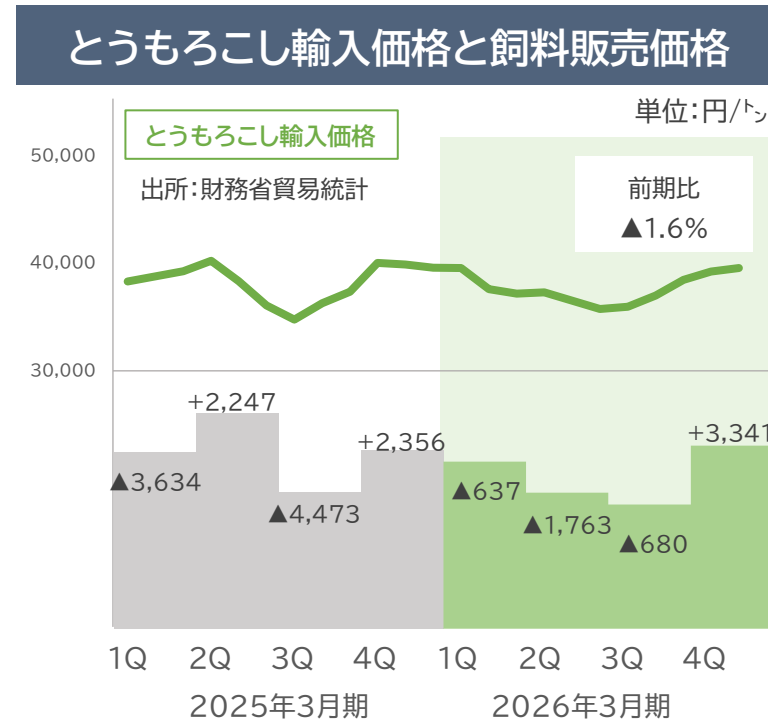
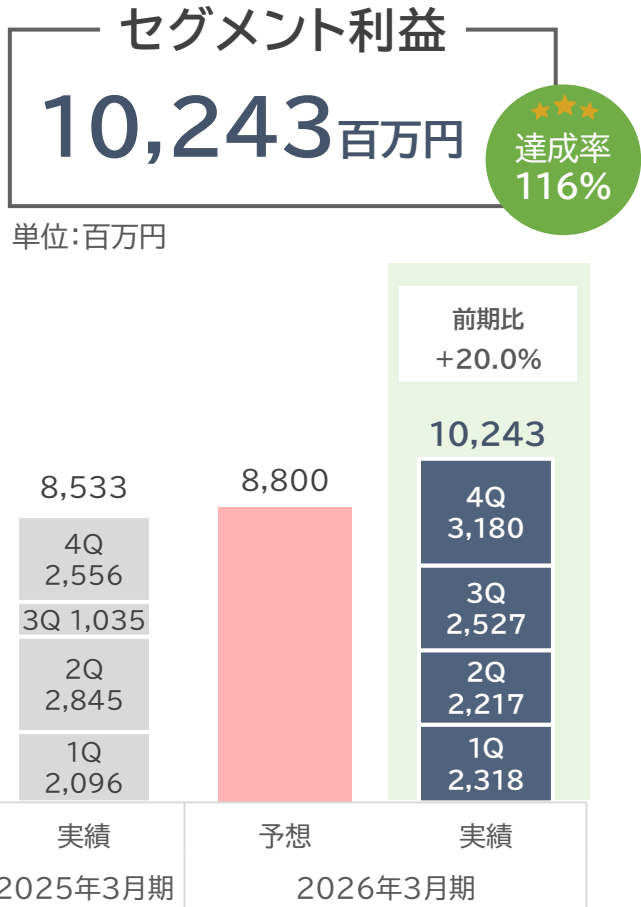
セグメント	2025.3期	2026.3期				
			増減額	前期比	通期予想 達成率	
畜産飼料事業	売上高	232,259	223,744	▲8,514	▲3.7%	93.6%
	セグメント利益	8,533	10,243	+1,710	+20.0%	116.4%
	EBITDA	11,073	12,987	+1,914	+17.3%	112.9%
水産飼料事業	売上高	25,640	24,863	▲776	▲3.0%	88.8%
	セグメント利益	1,164	1,426	+262	+22.6%	118.9%
	EBITDA	1,679	2,005	+325	+19.4%	111.4%
食品事業	売上高	38,131	42,053	+3,922	+10.3%	95.6%
	セグメント利益	284	163	▲120	▲42.4%	81.9%
	EBITDA	457	398	▲58	▲12.8%	99.7%
その他/調整額	売上高	14	13	▲1	▲9.1%	—
	セグメント利益	▲3,193	▲3,221	▲28	—	—

※セグメント利益: 経常利益ベース

※EBITDA: 経常利益+支払利息-受取利息+減価償却費及びのれん償却費

※その他=海外事業及び不動産賃貸事業等、調整額=報告セグメントに含まれない損益

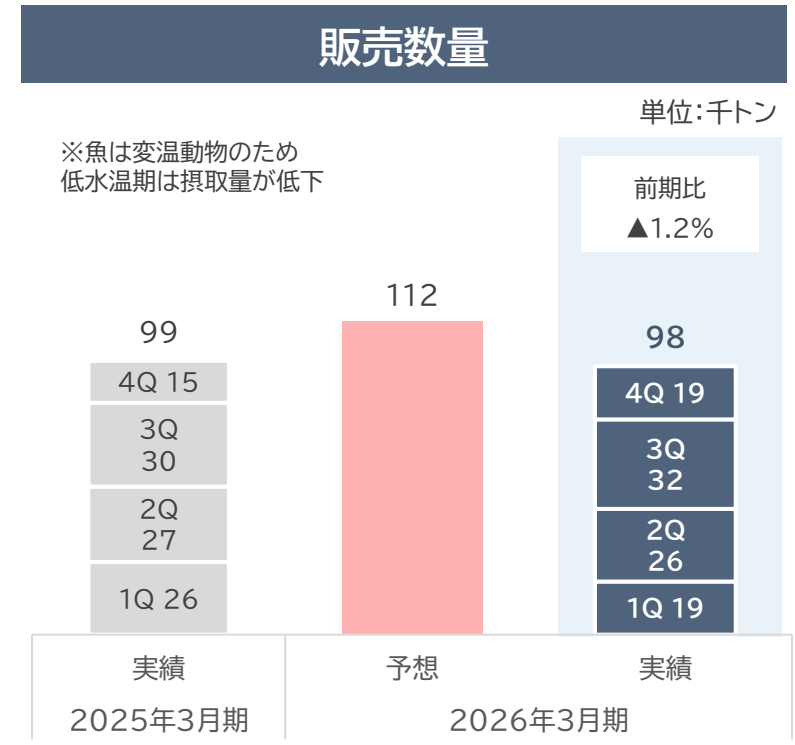
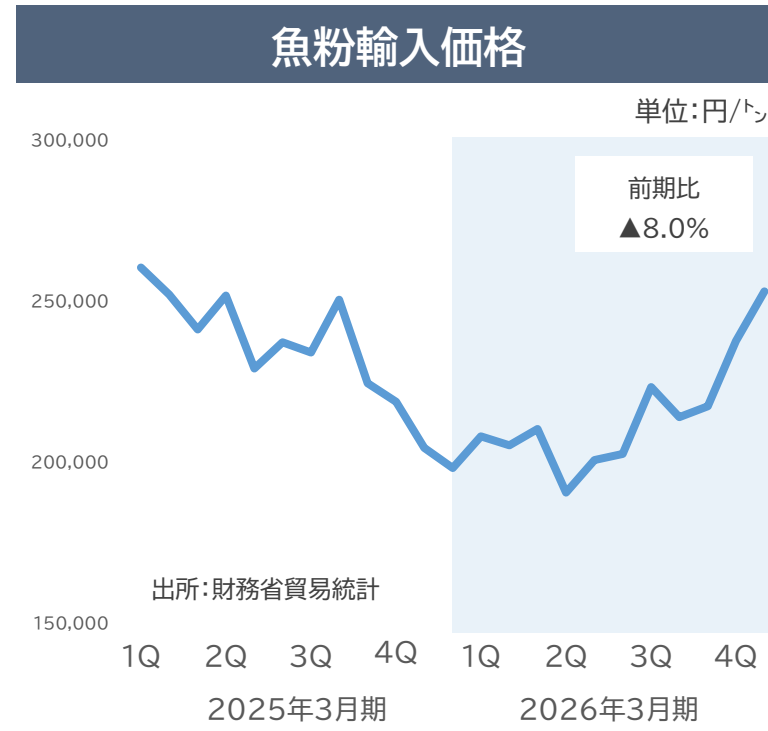
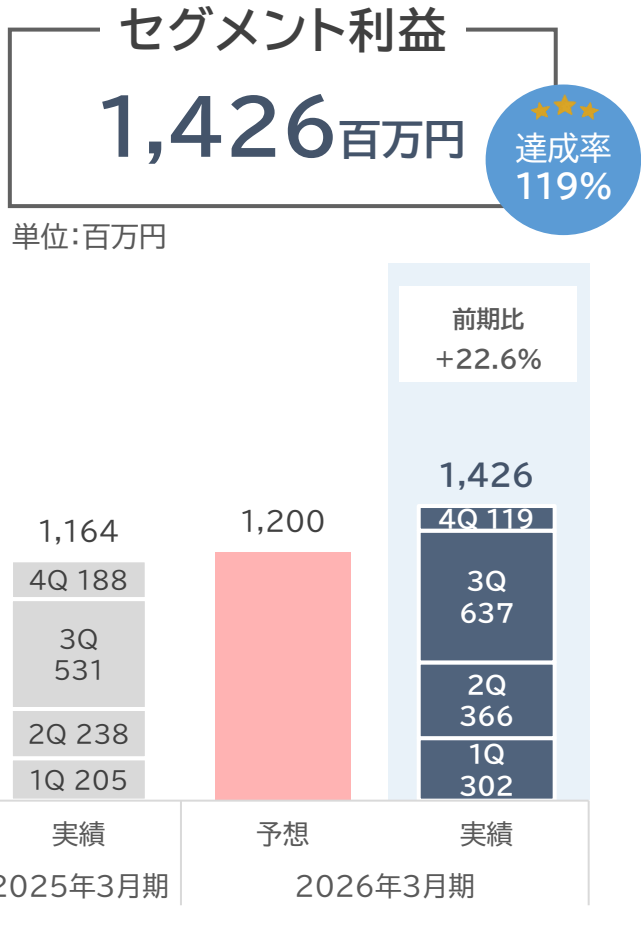
規模と収益性の両立を進めた結果、統合後初となるセグメント利益100億円超を達成



- セグメント利益(前期比+1,710):販売数量減少▲377、粗利増加+2,001、持分法損益の増加等+268 他
 - 販売数量(前期比▲52):継続的収益力の強化を優先したことで、前期および予想を下回る。一方、乳牛用飼料は暑熱対策飼料や新製品の投入効果もあり、前期比で増加し、通期予想水準で推移
- (参考)全国の畜産飼料販売数量は前期比▲0.9% (当社調べ)

採算性の改善が進展し、販売数量は減少も、各四半期で堅調な利益を計上

採算性を重視した販売戦略を推進する中で、原料相場の追い風も寄与し、過去最高益のセグメント利益を達成



- セグメント利益(前期比+262):販売数量減少▲36、粗利増加+380 他
 - 販売数量(前期比▲1):養殖環境の良化(※)に加え、ブリ・カンパチ向けへの拡販により下期は前年同期比+15%となるも高水温等の影響を受けた1Q減少分のカバーまでは至らず
- (参考)全国の水産飼料生産数量は前期比+5.2% (当社調べ) 参考:生産数量ベース 当社実績+0.6%

※高水温環境の改善や、期初導入された稚魚の成長による飼料需要の増加

原料市況の追い風を活かしつつ、収益性の改善が進展し増益

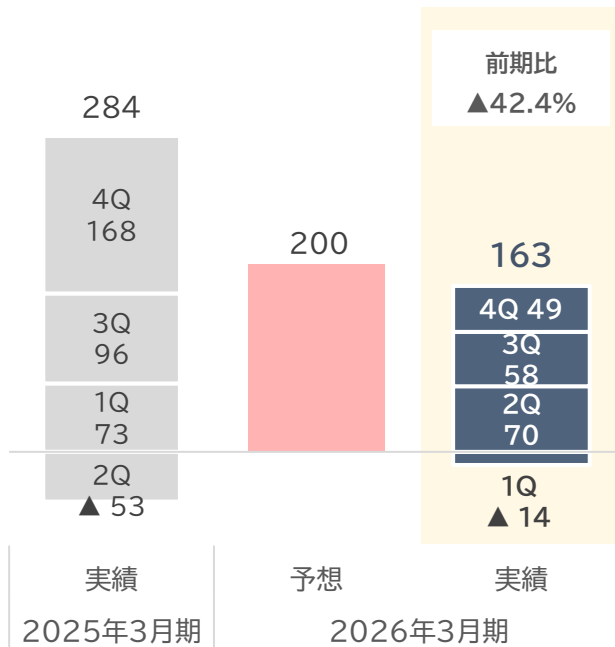
相場影響によりセグメント利益は前期を下回るも、収益構造改革の進展により、相場変動に対する耐性は着実に向上

セグメント利益

163百万円

達成率
82%

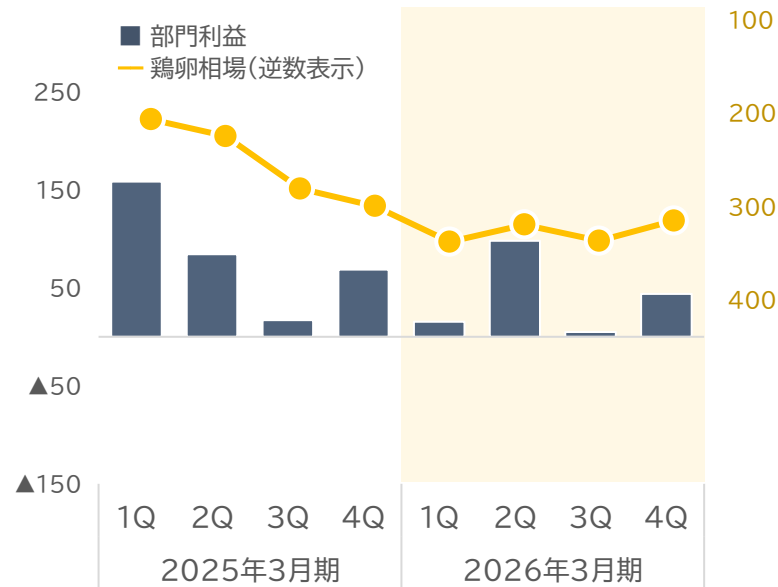
単位:百万円



鶏卵部門:利益・鶏卵相場四半期推移

単位:百万円

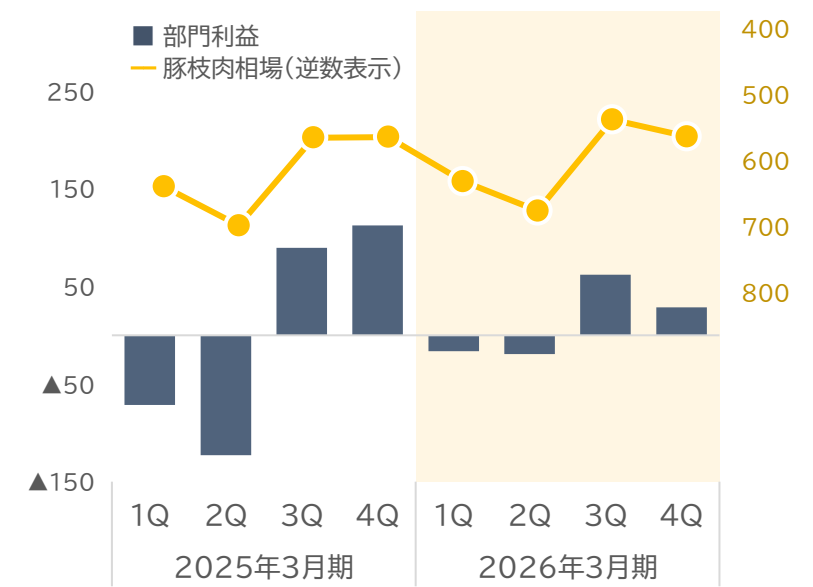
単位:円/kg・税抜



食肉部門:利益・豚枝肉相場四半期推移

単位:百万円

単位:円/kg・税抜



- 鶏卵部門) 猛暑や鳥インフルエンザの影響により鶏卵相場は高値で推移。仕入原価上昇および新工場稼働(※①)による減価償却費の増加により前期比減益。収益構造改革(※②)は進展しており、相場高騰局面においても赤字は回避
- 食肉部門) 豚枝肉相場は前期並みで推移。収益構造改革が進展し、相場変動局面においても大幅な赤字を回避。継続的収益力が安定したことで前期比増益

※① 2025年3月31日よりマジックパール株式会社の新工場が稼働 ※② 売価条件(販売価格見直しのタイミング等)や販売方法の見直し 等



食肉部門では増益も、鶏卵部門は相場の高値推移により減益。結果食品事業全体でも減益

2027年3月期 通期業績予想

フードチェーンの構造課題に加え、足元の地政学リスクが市場環境に影響を及ぼす中でも、影響は限定的と見込む

－ 対応策 －

生産現場への影響

生産者の経営悪化

畜水産物消費の減少



売上高の減少

- ・飼料市場規模の縮小
- ・他社競争の激化

穀物価格の上昇

バイオ燃料需要増

肥料価格の上昇



売上原価の上昇

- ・原料価格の上昇
- ・製造経費の上昇

海上運賃の上昇

エネルギーコストの上昇

運送コスト上昇

工場燃料コスト上昇



販管費の上昇

- ・飼料輸送コスト上昇
- ・基金負担金の上昇

- ▶ 成績を改善し収入増に寄与する製品による生産者への支援
- ▶ 飼養管理技術の提案を含む総合的コンサル営業によるシェア拡大

- ▶ 販売価格への転嫁
(前提)畜産飼料は四半期に1度、原料価格変動に応じ、販売価格を改定する
- ▶ 製造効率化によるコスト抑制

- ▶ 販売価格への転嫁
(補足) 飼料は取引先が工場に引き取りにくるケースも多く、影響は限定的
- ▶ 運送効率化の取り組み(DX)

中期経営計画の総仕上げ。過去最高益を連続更新する業績を予想

(百万円)

	2026.3期	2027.3期		
			増減額	前期比
売上高	290,675	317,000	+26,325	+9.1%
売上原価	256,828	281,600	+24,772	+9.6%
売上総利益	33,847	35,400	+1,553	+4.6%
販管費	25,755	26,900	+1,145	+4.4%
営業利益	8,091	8,500	+409	+5.1%
経常利益	8,612	8,800	+188	+2.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	6,377	6,500	+123	+1.9%

配当予想

年間

52.0円/株

(前期比+6.5円)

〔 中間 26.0円/株 〕

〔 期末 26.0円/株 〕

DOE

3.3%

(前期比+0.2pt)

経営指標 ()内は中期経営計画値~27.3期~

販売数量

381万ト
(390万ト)

EBITDA

130億円
(115億円)

ROE

10%
(8%以上)

ROIC

7%
(6%以上)

総投資額

75億円超
(-) ※中期経営計画値はなし

セグメント別業績予想

厳しい事業環境下でも各セグメントで着実な増益を目指す

(百万円)

セグメント	2026.3期	2027.3期	2027.3期		
			増減額	前期比	
畜産飼料事業	売上高	223,744	240,000	+16,255	+7.3%
	セグメント利益	10,243	10,400	+156	+1.5%
	EBITDA	12,987	13,200	+212	+1.6%
水産飼料事業	売上高	24,863	31,000	+6,136	+24.7%
	セグメント利益	1,426	1,500	+73	+5.1%
	EBITDA	2,005	2,100	+94	+4.7%
食品事業	売上高	42,053	46,000	+3,946	+9.4%
	セグメント利益	163	300	+136	+83.1%
	EBITDA	398	500	+101	+25.4%

事業環境の見通し

不確実性増すも、影響は限定的

輸入原料価格の上昇懸念はあるものの、価格改定により影響は一時的。差別化製品拡売等で増益を見込む

魚粉価格は統計開始以来の最高値を記録。無魚粉飼料の拡大により競争優位性を高め増益を見込む

畜産物相場は高値推移を見込む。前期の収益構造強化が寄与し、増益を見込む

販売数量	2026.3期	2027.3期	前期比	コメント
	(千ト)	(千ト)		
畜産飼料	3,635	3,700	+1.8%	暑熱対策製品等の差別化製品を中心に拡売
水産飼料	98	115	+17.7%	無魚粉・低魚粉飼料の拡売

開催日時

2026年5月19日(火) 10:00~11:00

対象

機関投資家の皆さま

※開催日時に弊社HPにて資料を掲載します

開催形式

ハイブリッド開催(会場+オンライン)

登壇者

代表取締役社長	庄司 英洋
取締役専務執行役員	窪田 和男
社外取締役	辻 孝夫

説明内容

2026年3月期の決算説明
2027年3月期の業績予想および経営・財務戦略

お申込みは ①会社名 ②ご芳名 ③メールアドレスを記載のうえ、ir@feed-one.co.jp まで。
後日、野村インベスター・リレーションズ様より視聴案内が送付されます

參考資料



会社名	フィード・ワン株式会社
所在地	神奈川県横浜市西区みなとみらい五丁目1番2号
代表	庄司 英洋
設立	2014年10月1日
資本金	100億円
従業員	935名 (2026年3月31日現在/連結)
筆頭株主	三井物産株式会社 (持株比率/25.6%)
事業	配合飼料の製造・販売、畜水産物の仕入・販売・生産・加工等 上記に付帯関連するその他事業(農場の経営指導、家畜診療施設の運営等)



代表取締役社長

庄司 英洋

PURPOSE(企業理念)

飼料で食の未来を創り、命を支え、笑顔を届ける

配合飼料の製造・販売から農場・食品まで事業領域とし、日本の「おいしさのみなもと」を創造しています

子会社 16社

● 飼料販売会社

北海道フィードワン販売(株)
道北協同飼料販売(株)
東北フィードワン販売(株)
鹿島フィードワン販売(株) ※
北九州フィードワン販売(株)
南九州フィードワン販売(株)

● 飼料製造会社

志布志飼料(株)

● 農場会社

(有)グリーンファームソーゴ
(株)第一原種農場
(株)南部ファーム

● 食品会社

マジックパール(株)
フィード・ワンフーズ(株)
(株)横浜ミート
ゴールドエッグ(株)

● その他

(有)いわき中央牧場
南洋漁業(株)

持分法適用会社 11社

● 飼料販売会社

(株)北海道サンフーズ

● 飼料製造会社

釧路飼料(株)
仙台飼料(株)
鹿島飼料(株)
平成飼料(株)
八代飼料(株)
マルイ飼料(株)

● 農場会社

(株)美保野パーク

● その他

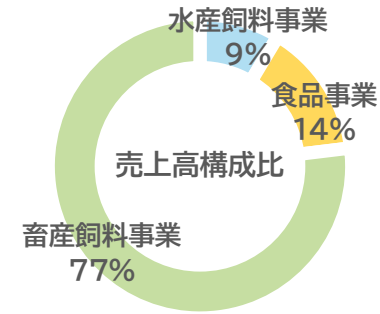
KYODO SOJITZ FEED COMPANY LIMITED
NIPPAI SHALIMAR FEEDS PRIVATE LIMITED
門司港サイロ(株)

畜産飼料事業セグメント 水産飼料事業セグメント 食品事業セグメント その他セグメント

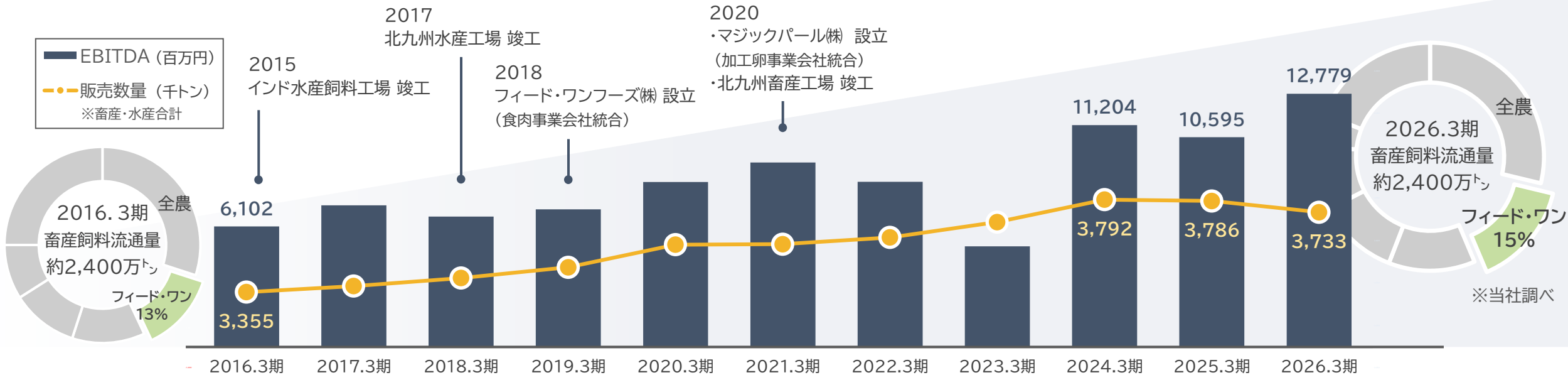
2026年3月期業績

売上高 **2,906**億円
経常利益 **86**億円

販売数量 **373**万ト
ROE **11.0%**



主力事業は畜産飼料であり売上高の約8割を占めています
水産飼料は約1割に留まりますが、市場規模の違い(畜産の約6分の1)に起因しています



飼料の安定供給という使命のもと、社会の要請に応える製品を創出し、企業価値を向上します

第2フェーズ - 2025.3~2034.3期 -

～継続的収益力の強化と生産体制の刷新・増強～

第1フェーズ 2016.3~2024.3期

統合による
事業基盤の確立

EBITDA
61億円→112億円
(2016.3期) (2024.3期)
販売数量
336万ト→379万ト
(2016.3期) (2024.3期)

1stステージ

2025.3~2027.3期

EBITDA 115億円
ROE 8%以上
ROIC 6%以上
(2027.3期計画)

2ndステージ

2028.3~2030.3期

3rdステージ

2031.3~2033.3期

2034.3期

畜産飼料市場シェア

販売数量 20%以上

EBITDA 160億円以上

ROE 10%以上

ROIC 8%以上

総投資額 約600億円
(2025.3~2030.3期)

総投資額 約800億円
(2025.3~2034.3期)

収益構造はコア事業である畜産飼料事業の影響が大きく、売上高は業績の指標とはなりません

[売上高] 輸入原料価格の変動に応じ販売価格を見直し

- 畜産飼料は四半期に1度、輸入原料価格の変動に応じた販売価格の見直し(価格改定)が行われます
- 売上高は価格改定の影響を大きく受けるため業績の指標とはなりません

[売上原価] 売上原価の大半を原料費が占める

- 配合飼料の売上原価の大半を原料費が占めています
- 原料費の8割以上が輸入原料となるため輸入原料の価格変動は売上原価に直結します

[販管費] 配合飼料価格安定制度積立金を計上

- 輸入原料価格の急激な価格上昇が畜産生産者の経営に及ぼす影響を緩和する制度です
- 国、メーカー、生産者が基金を積み立てており、条件を満たした際に生産者に補填金が拠出されます
- 積立金は税務上販管費への計上が認められており、2026年3月期は約65億円を計上しました

営業利益

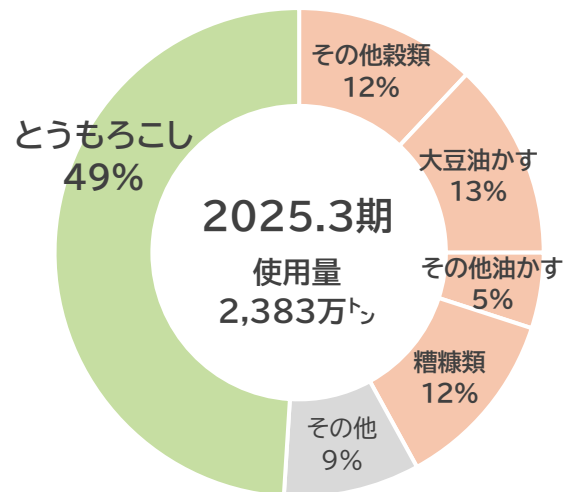
畜産飼料事業は輸入原料の価格変動に応じ販売価格の改定を行うため、一時的な変動はあるものの、利益は安定しています

飼料穀物のほとんどは輸入に依存しており、特に、米国・オーストラリアに大きく依存しています

我が国の飼料穀物輸入量 (万ト)

	2023.3期	2024.3期	2025.3期
とうもろこし	1,116	1,126	1,143
こうりゃん	15	9	5
小麦	41	41	39
大麦	108	107	102
その他	4	4	4
合計	1,284	1,287	1,293

配合・混合飼料の原料使用量



米国
とうもろこし(81%)

ブラジル
とうもろこし(18%)

オーストラリア
大麦(53%)
小麦(65%)

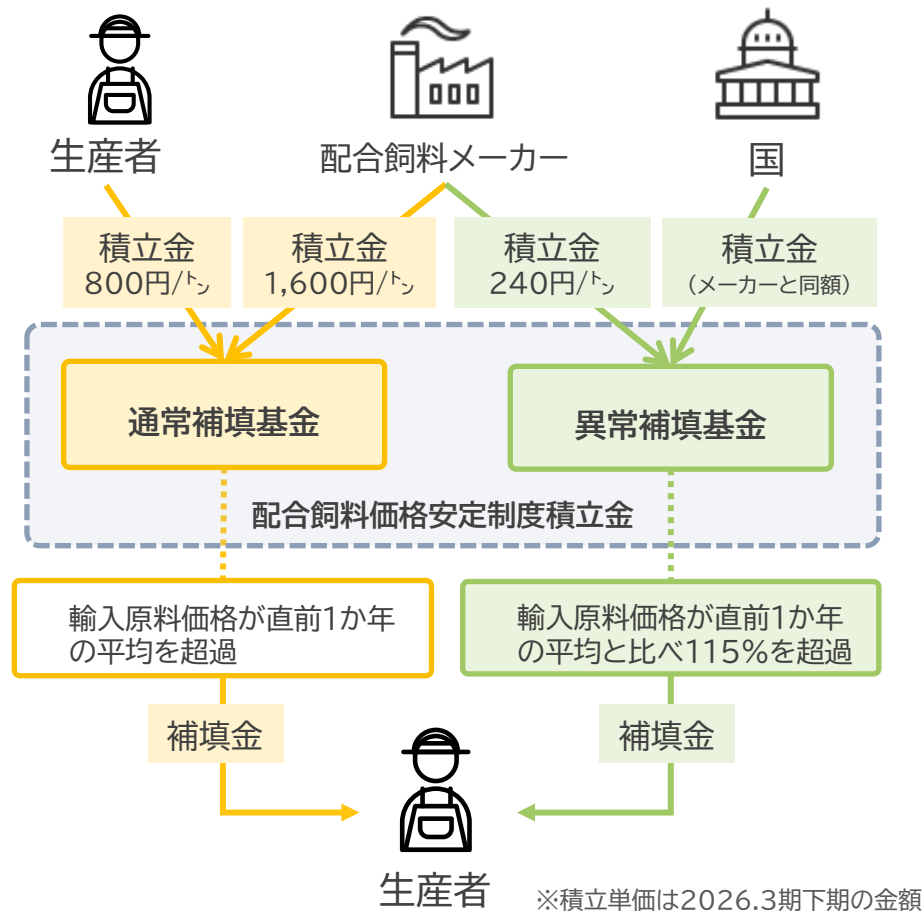
注:括弧内の%は2025.3期の輸入量の国別シェア
出典:農林水産省「畜産をめぐる情勢(令和7年12月)」

輸入原料の急激な価格上昇が畜産生産者の経営に及ぼす影響を緩和する制度です（※畜産飼料のみ）



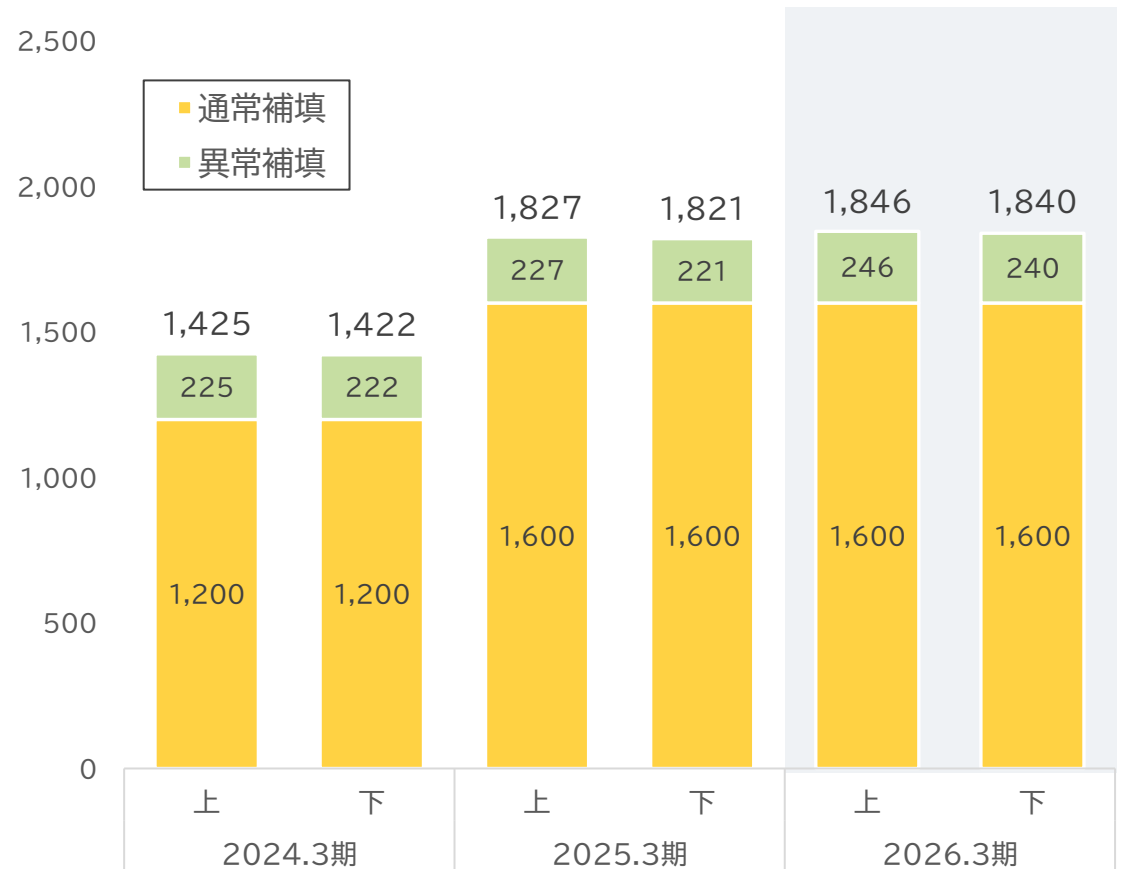
詳しくはこちら

〔 制度の仕組み 〕

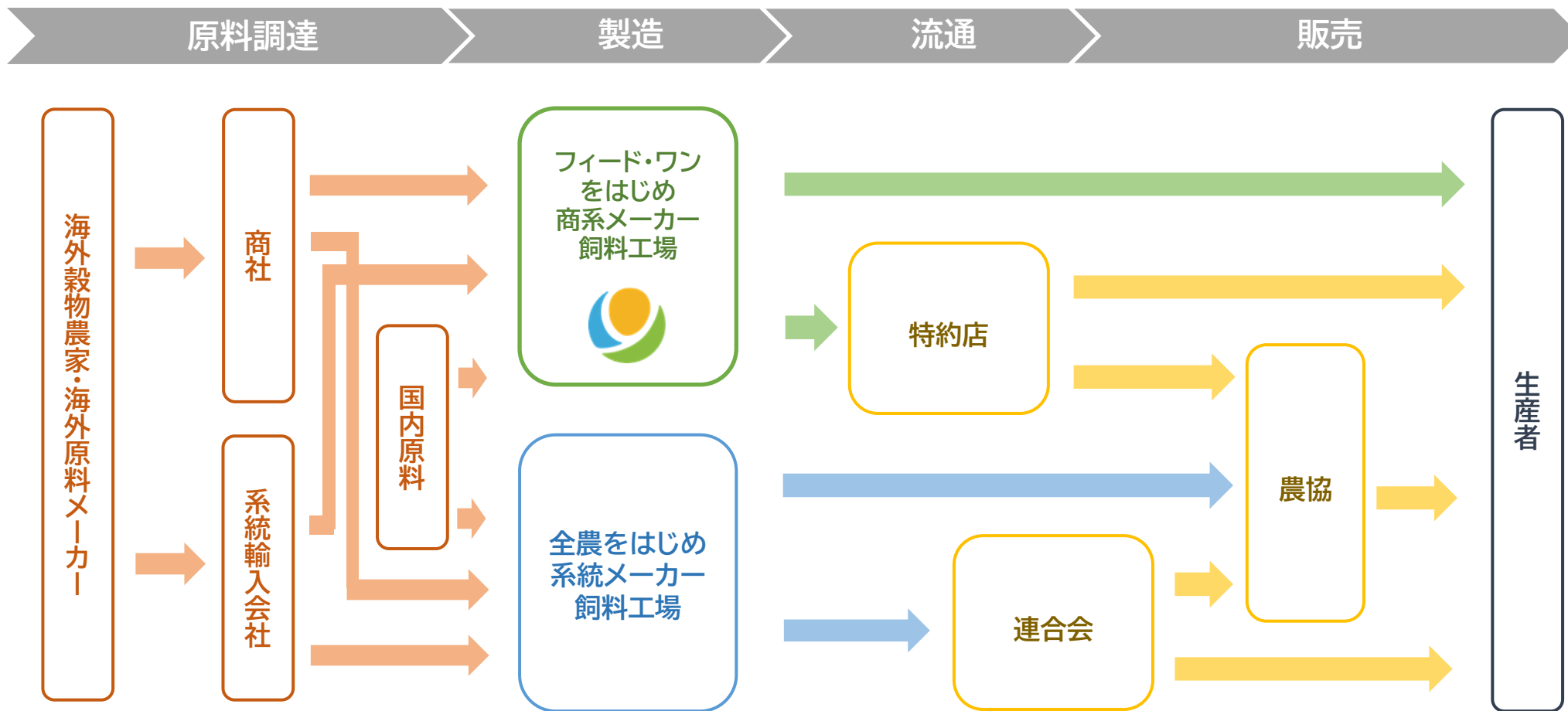


〔 積立金(配合飼料メーカー) 〕

単位:円/ト



飼料工場から生産者までの商流は、「メーカー直販」「特約店経由」「農協経由」等が存在します



フィード・ワン
IR情報 トップ



<https://www.feed-one.co.jp/ir/>

フィード・ワン
統合報告書2025



https://www.feed-one.co.jp/ir/integrated_report/

フィード・ワン
企業調査レポート



https://www.feed-one.co.jp/ir/sponsored_research_report/

本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での当社の判断であり、
その情報の正確性を保証するものではありません
また、様々な要因の変化により実際の業績や結果とは異なる可能性があることをご承知おき下さい

<IRに関するお問い合わせ>

おいしさのみなもと



財務経理部 IR・財務企画課

E-mail : ir@feed-one.co.jp

Webサイト : <https://www.feed-one.co.jp/>

